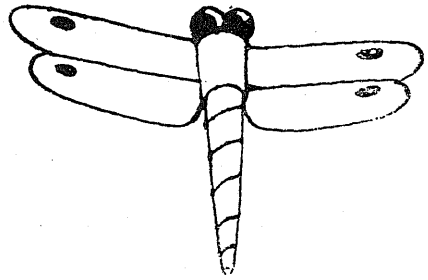


夏のしりあしど



(せみ・とんぼ・ちようちよ)

及 川 ふ み

夏の戸外の遊びの最も嬉しいものは、おとこの子にきけば、せみ取り、とんぼ取り、とだれもが答えることである。くる日も、くる日も、せみ取り、とんぼ取りに専念する子供たちのその姿は、頼母しくも又尊い様にも思われる。

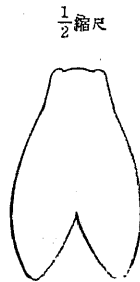
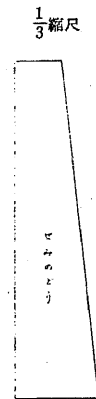
それだけに、せみやとんぼに対しての知識は豊かで、大人がおしえられる点が多い。せみの形態、種類、とんぼの形態、種類、云々何何だから何せみ、曰く何何だから何とんぼなどと豊かな経験から、自然に育てられたこれらの知識となつてゐる。

せみ、とんぼ、ちようちようなどの製作も自然に子供たちの興味深い製作の材料となるのは当然のことである。

せみやとんぼ、ちようちよ、等の平面的の部分は、その表現も容易で、子供たち自身でもよく描写するが、これを缺で切り取つただけでは、虫かごなどに入れて飼育する遊びに進展するのには、ものたりなくてその実感が弱い。そこで如何に指導してその欲求を満して実体感を強めるかについて考えたい。しかも

その方法は出来るだけ容易なものであるという点が重要なことで、一つ二つ指導すれば子供たち自身でも容易にこれが作られるということである。

【工作図I】

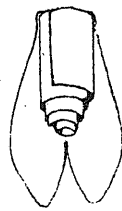


工作図I の幅の広い部分より、巻きはじめ、点線の箇所を糊でとめる。この胸が羽につく部分を五ミリ位平にして糊をつける。糊のかわいた頃に、クレオンで色をぬる。

とんぼ、ちようちようなどは、せみの胸ほど複雑でないから、ただ簡単な管を作つて胸につけるとよい。

せみやとんぼ、ちようちようなど一つのものを作るといふよりは、せみの家、とんぼの家、ちようちよの家をつくと云う点を考えて

この製作を進めたい。友達と一緒に協力してせみの家、とんぼの家を作ることに重点をおいて個々の仕事から出発するの

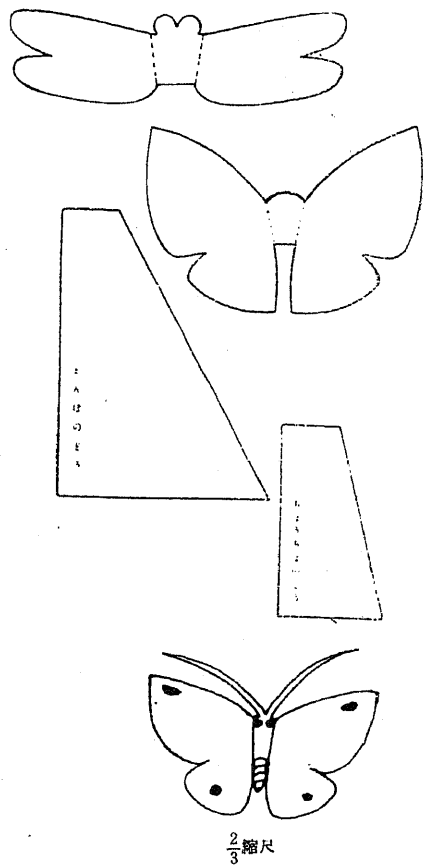


縮尺 $\frac{2}{3}$ である。幼稚園生活にもなれて来た今日この頃

製作の面でも友達と協力する楽しさ、うれしさを感じさせる材料として、その指導の方法もよく考えられたい。

大きなボールの空箱などを利用して、せみの家とし、銘銘の作ったせみをその箱に入れて遊ぶいき方である。五人六人のグループで一つのせみの家、或はとんぼの家をつくる。その家のつくり方は、数人のものが話し合いできめ、或は大人の協力を求めれば、これを援助することは勿論であるが、皆の友達が協同してその製作という点を主要なねらいと考える。

このいき方は季節が変つて秋も近くなればこおろぎ、ばつたなど、草むらに在る秋の虫などの家も、このせみやとんぼの製作が、そ



【工作図Ⅱ】

1/2縮尺

の材料が異つて来て、子供たちの間に大人から与えられたヒントから、又別な考えを創めることの端緒ともなることが期待される。

× ×

× ×

及川先生案
たのしいおしごと

第一巻・第二巻

B5版十六枚 定価四五円

一六円

製作は子供達に楽しい興味を呼びおこすと共に、創意と工夫をます／＼発揚させるものでなければなりません。同時に忘れてならない事は製作の環境です。及川先生御企案の「たのしいおしごと」はこの目標をもとにして、こども達が実際にたのしく作り、よく遊んだものをあつめたもので、大変に御好評をいただいております。